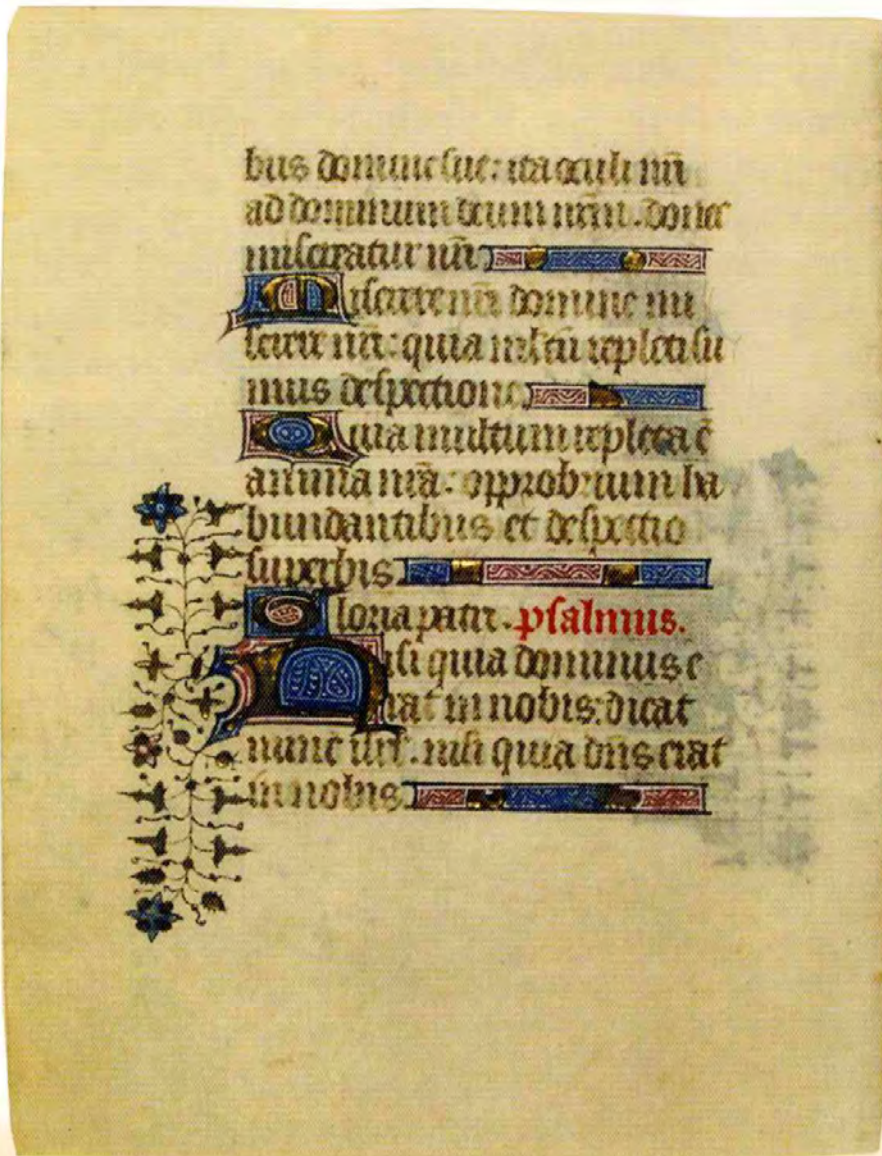


専修大学

図書館だより 第55号

2005. 4



フランスの写字生による
時禱書の一葉

Example of Gothic script in Latin, on vellum, from a French Book of Hours.
フランス 15世紀中葉 15.2×11.7cm

ラテン語で羊皮紙に書かれた時禱書(中世後期、世俗信者の私的な日常の祈りのために作られた書)の一葉。

文章は15行で、褐色インクによりゴシック体で書かれている。装飾された頭文字は、赤または青のテンペラ地に磨かれた金箔を用い、アカンサス葉と花模様の縁飾りが施されている。

目次

ようこそ、Another Worldsの入口へ(図書館長 大庭 健).....	2
シリーズ ムーサの神殿 貴重書紹介 『西洋文字遺産集成』.....	3
メッセージ 卒業生から新入生へ.....	4~5
図書館案内 新入生歓迎.....	6~7
図書館インフォメーション.....	8

特別展示

西洋文字遺産集成

～文字の出現から書物へ～

期間

平成17年4月1日(金)～4月28日(木)

場所

図書館本館 120年記念館(9号館)3階
ブラウジング・プラザ

ようこそ、Another Worlds の入口へ

図書館長 大庭 健



何かを調べるときに、まず、どうするか？ インターネットで検索する。たしかに手軽で、手取り早い。列車の時刻をしらべたり、ショップや宿を探したり、というのなら、それで十分だ。しかし、レポートを書くために、あるいは授業で分からなかったことを調べる、となると、そうも行かない。

Googleでもgooでもいいが、キーワードを入れて検索キーを押すと、何十・何百、場合によっては、何千というサイトにヒットしてしまう。そこに出てくる情報は、たんに膨大であるだけでなく、千差万別である。そうすると、どうしても二つのことが必要になる。第一に、自分が調べようとしていることについての基本的な予備知識であり、第二に、それにもとづいて、それぞれのサイトの情報の重要度・信頼度を自分でチェックできることである。

この二つを身につけるためには、やはり、分かりやすく信用できる事典や入門書を読むしかない。つまり、まずは図書館に行くしかない。そして、図書館に行くようになると、多くのものが自然と身につく。

小学校から高校、そして大学にいたるまで、授業で教えられる内容の大半は、大学で行われている研究成果にもとづいている。みなさんが手にする教科書・参考書は、そうした研究成果を、わかりやすく伝えるために編まれた本なのだ。

では、大学での研究は、どのように行われているのか？ 秋になって、とうとうリンゴが木から落ちた。一発の銃声によって、世界大戦がはじまった。こうしたときに、「な、なんなんだ？ 何が起きているんだ？」と驚くことから、研究がはじまる。しかし、その答えを探すた

めには、たぶん同じように驚いたであろう先人たちの思索をたどらざるをえない。どんなに天才的な研究者であっても、なにもないところで一人で考えているわけではない。

私たちが「な、なんなんだ？」と戸惑うように、いや、それよりも更に戸惑ったであろう先人たちが書き残した本は、図書館にあれば、誰でも自由に・勝手に読める。勝手に読み進めていくうちに、「そうかあ、何か変だと思っていたけど、このモヤモヤの正体はこれだったのか」とか、あるいは「自分が悩んでいた問題について、こんなに深く考えていた人たちがいるんだあ」とか、目の前が急に広がる。すると不思議なことに、難解な専門的理論は分からなくても、自分なりに、もっと納得のいく答えがはしくなる。

大学とは、そのようにして、青臭い感性が「な、なんなんだあ？」という問を消さないで、先人と出会う場もある。図書館では、そうした先人たちの仕事や、みなさんを待っている。

図書館に来るキッカケは、いろいろだろう。しかし、お目当ての本を探して書棚をウロウロしているうちに、芋づる式に、好奇心が湧いてくる。知らず知らずのうちに、関連する本への興味が湧いてくる。そのようにして本に出会い、本をとおしてはじめて接しうる世界に入っていくこと。こうした読書の経験のない学生生活は、ネタのない寿司のようなものだ。あなたたちの感性で、先人たちの戸惑いと模索の宝庫を、存分に味わってほしい。そのことは、みなさんの成熟にとって、とても大切なことなのだから。

(おぼたけし：文学部教授)

シリーズ ムーサの神殿 貴重書紹介

西洋文字遺産集成

文字の出現から書物へ



シュメールの楔形文字が刻まれた粘土板の経済文書

Example of a Sumerian cuneiform economic document, on clay.

メソポタミア ウル第3王朝時代
紀元前2112-2004年頃 8.4×4.5cm
2人の羊飼いに割り当てられた動物のリスト。楔形文字は、他の古代文字と同様に、はじめ特定の事物を定型的に描いた絵文字から、単語や音節を表す抽象的な形状に発展した。シュメール語の文学作品も一部残存しているものの、ほとんどの場合、楔形文字はシュメールの神殿における日常の事務に用いられたと考えられている。



古バビロニア語の楔形文字入り円筒印章

Example of an Old Babylonian cylinder seal with cuneiform inscription in Old Babylonian.

南メソポタミア 古バビロニア時代
紀元前1800-1600年頃 3.0×1.1cm (円筒印章)
中心に2人の人物が描かれており、左側の人物は膝丈の短い服を身につけて腰のあたりに棍棒をもっており、その右に、丈の長い服をまとい片手を上げている神あるいは崇拝者が向いている。2人の間には2つの十字、球などが付いた長いポールがある。図の右側には2つの十字と、その間に動(すき)と立っている山羊が描かれている。バビロニアの楔形文字による3行の碑文が入れられており、かつての所有者の名前がみられる。



コプト文字の例

Example of Coptic writing on papyrus.

エジプト(紀元)4-7世紀頃 4.0×5.0 cm
コプト文字でパピルスに書かれた商業文書の断片。コプト語は古代エジプト語から派生した言語だが、現在ではほとんど使われていない。コプト文字の母体となった民衆文字(デモティック)は、紀元前7世紀頃につくられたヒエログリフの早書き文字で、商用などに用いられていた。その後、紀元前2世紀には、エジプト語をギリシャ文字で表記した、いわゆるコプト文字が存在していたことが記録されている。

新シュメールの楔形文字が刻まれた粘土円錐

Example of a Neo-Sumerian cuneiform dedicatory inscription written on clay in the form of a thick cone or nail.

紀元前2120年頃 12×5.5cm
新シュメールの楔形文字の例。太い円錐の粘土に刻まれた奉獻文で、グデア王によるラガシュ(南メソポタミアの都市国家)統治時代のニンギルス神殿建設を祝うものである。



エジプト象形文字の例

Example of Hieroglyphic writing on papyrus.

エジプト 新王国時代
紀元前1200年-紀元2世紀頃 4.7×5.0cm
バビルスに書かれた「エジプト死者の書」断片で、来世のための呪文が書かれている。絵を用いたこの文字は神聖、墓、その他の国の記念碑などに用いられ、ギリシャ語で「神聖な彫刻」と言う意味の神聖文字(ヒエログリフ)とよばれるようになった。この象形文字は、日常的な物品などがたくさん含まれている。しかし、これは複雑な文字体系に発展し、1つの神聖文字がエジプト語の単語1語を表すことも、ただの1音を表すこともある。



ササン朝の文字の例

Example of a Sassanian stamp seal with nominative inscription.

古代ペルシア
(紀元)224-650年 1.2×1.2 cm
名前が入れられたササン朝ペルシアの印章。

本学図書館で所蔵している「西洋文字遺産集成」は、紀元前2000年頃から16世紀初頭までに文字が記された石・粘土板13点、パピルス10片、羊皮紙9葉からなり、文字の歴史をたどることができます。

人類200万年の歴史の中で、文字の歴史はその400分の1の5000年に過ぎませんが、文字文化の歴史こそ人類文化の中心であると言えるでしょう。またその歴史は、言葉の歴史と同様に複雑であり、共通の起源から互いに並行・独立して発展する場合もありましたが、多くの場合には、異なる文化間の盛んな異種交配を通じて発達してきました。加えて地理的・歴史的な状況などの要素にも左右されています。

現在知られている最古の文字体系は、メソポタミア文明(紀元前3500年～1700年頃)をつくりあげたシュメール人が発明したと推定される楔形文字です。粘土板に葦や金属で刻んだ楔形文字は、絵文字から抽象的な形状へと発展しました。一方、古代エジプトでは絵文字と表音文字の組み合わせからなる象形文字の神聖文字(ヒエログリフ)が使われ、パピルスに葦ペンで記録されました。これは次第に簡略化されて、神官文字(ヒエラティック)、民衆文字(デモティック)が派生します。

楔形文字と象形文字は、最古のアルファベットである北セム文字のいくつかにその形状を残しています。北セム文字から発展したフェニキア文字を基礎として、ギリシャ文字が誕生し、さらにローマ文字となりました。ヨーロッパでは、ローマ帝国の広大な支配権に入ったことにより、事実上西ヨーロッパの全部がローマのアルファベットを採用することになりました。中世になると、羊皮紙、羽根ペンという筆記材料の移行、ゴシック体などの書体の出現がみられます。

文字をめぐる環境は、中国からヨーロッパへの紙の伝播(12世紀)、ゲーテンベルクの活版印刷(15世紀)、タイプライターによる印字(18世紀)、そして、ワードプロセッサ、電子媒体による記録など、加速度的に変化を続けています。

5000年後の未来、文字はいったいどのような形になっているのでしょうか。

ベルンシュタイン氏逝去

本学図書館蔵
～「ミシェル・ベルンシュタイン文庫」～

古書籍商、ジャーナリスト、レジスタンス活動家のミシェル・ベルンシュタイン氏が2003年8月15日、フランスのオセール近郊で亡くなっていたことがわかりました。97歳でした。

1906年1月13日、リヨンに生まれたベルンシュタイン氏は、1932年に商船会社を退社と同時にパリで古書籍業に就き、大戦中はレジスタンス運動に参加、1944年からの新聞・雑誌の編集・執筆活動を経て、1948年、再び古書籍業に戻りました。主として17-18世紀の政治・経済・思想・歴史に関する書誌情報提供者としても知られました。

本学「ミシェル・ベルンシュタイン文庫」は、氏が約40年に渡って収集したフランス革命関係資料4万数千点からなるものであり、氏の名をいただいたものです。
謹んで哀悼の意を表します。

卒業生から新生へー図書館はこんなところ

「大学生活と図書館」

経済学部卒業 松元 望

目の前にある本すべてが自分のものになる感覚——私は小さい頃から図書館という空間が好きでたくさんの本に出会ってきました。そして大学生活の4年間を振り返っても私と大学図書館とは切っても切れないもので、多くの思い出が残っています。

試験前、閲覧室にこもって勉強したこと、レポートのために使える資料を必死に探したこと、ゼミの教授の書いてきた文献を次々に読んでいったこと、授業の空き時間や友達の待ち時間に軽読書コーナーで新聞や雑誌を読んで時間をつぶしたこと…。また、司書の資格を取るきっかけを与えてくれた神田の図書館でのアルバイトを通して、本が発注され、受け入れられ、利用者の手に届くまでの一連の流れを知ることができました。私にとって毎日の生活のそばにあった大学図書館は、本当に身近なものでした。

専修大学の図書館には毎週毎週たくさんの書籍や雑誌が届きます。自分の希望する本のリクエストを出すと購入してもらうこともできます。勉強や研究に使う難しい本ばかりでなく、世間をにぎわせてい

るような話題の本やマンガや雑誌、そしてたくさんの種類の新聞が置いてあります。生田の図書館ではビデオを見ることもできます。OPACで専修大学の蔵書を検索し、本が貸出中かどうかを知ることができ、神田にないときは生田の本を、生田にないときは神田の本を取り寄せてもらうこともできます。たくさんのオンライン・データベースを無料で利用できます。他大学所蔵の資料を借りてもらうこともできます。閲覧室もあって、勉強に集中したいときには本当につかえます。図書館のホームページも充実しています。

新生生のみなさん、専修大学の図書館にあるもの全てはあなたたちのものです。まずはぜひ、図書館案内ツアーに参加してみてください。図書館の使い方が分かるといいと思います。そして、暇な時間にちょこちょこ図書館に足を運んで、大学図書館という場所を自分の空間にしてください。その中でたくさんの本に出会ってください。図書館は、学生生活を充実させるためのひとつの道具になると思います。

「文理系への道しるべ」

法学部卒業 中村 武史



本当は理系に進みたかったのだ。だが受験制度はそんなに甘くなく、嫌々ながら法学部に進学することになったのだ。そんな私にとって、神田図書館地下2階は憧れの場所であった。そこにはたくさんの理系専門書がある。初めて借りた本は微分・積分の概説書だった。塾講師のアルバイトで使用するために借りたのだが、楽しくて仕方がなかった。他にもガウス平面、コンデンサーの機能説明の本なども読み漁った。

やがて3年生になり、セミナーの発表の機会が訪れた。仕方無しに教育法学の本を探し、借りてみた。そしてこれが非常に面白く、のめりこんでしまったのだ。これ以後、文系科目にも興味を持てるようになり、様々な文系の本に目を通すようになった。他方、相変わらず理系専門書も漁っていたのだ。だが今までと違い、理系に対する憧れの気持ちは無く、却って、この屈折した感情を克服できたと実感している。多角的な視点が求められている現在、図書館のおかげで「文理系」になれたことに感謝の気持ちでいっぱい。

「私の図書館の利用法」

経営学部卒業 岡田 尚子

大学生活の4年間を振り返ると、もっと図書館を利用すればよかったと後悔しています…。私は図書館を、本を借りるというよりも主に自習室として使っていました。生田分館の2階にある閲覧室は飲み物も飲めるし、人も多くはないので自習室としては最適です。テラスがすぐそばにあり、気分転換もできます。大学の中の穴場スポットだと思います。大学で自習したい人は是非利用してほしいと思います。

最初は自習室として利用していたのですが、ある時ふと本が読みたくなって自習したあと、宮部みゆきさんの『ICO:霧の城』という本を借りました。それがすごく面白くて、最近では週に1冊のペースで本を読み始めるようになりました。もっと早く本に出会っていれば図書館で多くの本を読めたのに…と後悔しています。公共図書館では順番待ちでなかなか借りられない本も大学の図書館ですぐに借りられたりします。ぜひ利用してみてください。



新生生の皆さんに、今年3月に卒業した先輩方からメッセージをいただきました。

そこからは、図書館を使いこなして学生生活を有意義に過ごしていたことが伝わってきます。

皆さんも、ぜひ自分なりの図書館利用法を見つけてください。

「自分だけの時間を」

商学部卒業 柴田 恵美子

大学生活4年間を振り返ってみて、私にとっての図書館はとても大きな存在だったと感じます。授業の空き時間があればいつも図書館にいたと思います。もし図書館がなかったら、どのように過ごしたのか…それくらい図書館を利用させて頂きました。

図書館は多くの専門書が揃っていて、レポートがあるときに利用するのはもちろんのこと、新聞・週刊誌のあるコーナー等もあり、誰にとっても過ごしやすい環境だと思います。AVプラザも利用しないのもったいないくらいです。ソファに座り、大きな画面で好きな映画を見るのは最高です。

また、天気の良い日は、生田分館のテラスでランチを食べたりしました。緑が多く風も気持ちよくて、友達とのおしゃべりも盛り上がり、素敵な時間を過ごさせてくれました。

大学生活は本当にあっという間です。新生生の皆さんにも、図書館をたくさん利用して頂いて、自分だけの有効な時間を過ごして頂けたらと思います。



「図書館展示をおこなって」

文学部卒業 中田 喜裕



私は大学の4年間、ワンダーフォーゲル部に所属していました。基本的な活動は山登りなので、図書館とは全然関係がないように思われるかもしれませんが、私も4年間の活動の中でワンダーフォーゲル部として利用することはないと考えていました。しかし、3年と4年の時に生田分館でワンダーフォーゲルの活動についての展示をする機会を与えていただき、多くの人に活動内容だけでなく、どのような歴史があるのかを知ってもらえました。またワンダーフォーゲルの活動は実際にやってもらわないと理解してもらえないと思い、分館エントランスホールにテントを設置し、自由に中に入って活動を体験してもらおうという試みもすることができました。

私は、図書館は本を読んだり、借りたりするところだと思い込んでいました。ところがこの展示を通して、図書館はたくさんの可能性を持っているということを知りました。そして、その可能性を十分に活用すれば、より充実した学生生活が送れるようになるはず。そのためには学生から図書館への積極的な働きかけが必要なのです。

「レポート作成の裏技」

ネットワーク情報学部卒業 濱野 亮平

後輩のみなさん、初めまして。卒業生から図書館の活用方法についてアドバイスをさせていただきます。

私が図書館を利用して一番困ったのは、IT関連の新しい書籍の少なさでした。IT業界は技術の開発スピードが早く、書籍が揃う頃には古い技術になっていることもめざらしくはありません。最新の情報を得るために、インターネットでの情報収集が多くなります。

しかし、学術的な分野の情報となると、断片的な情報だったり、サイト製作者の主観による意見であったりと、確かな情報を得るのは困難です。前提となる情報が間違っていると結論も間違ってしまうし、他の誰かと同じようなレポートにもなりかねません。

実は、図書館には最新の情報を得る手段があります。週刊誌・月刊誌のあるコーナーで、雑誌をくまなく検索することです。特に本館4階の新着雑誌コーナーには、一般の本屋では見られない専門的な雑誌が揃っています。

OPACで検索しても書籍では見つからない、そんなときは雑誌のバックナンバーを探しましょう。



新入生歓迎 ~あなたを待っています~



AVプラザ

Q君:ここがうわさに聞いたAVプラザですか?
Aさん:そうです。CD・DVDが視聴できるので、学生さんに人気ですよ。



第1閲覧室

Q君:広いですねー。ここで勉強ができるんですね。

Q君:本はどうやって借りるのですか?
Aさん:書架から本を持ってきて学生証と一緒にこのカウンターで貸出手続きをしてください。1人10冊、20日間借りることができますよ。わからないことがあったらレファレンスカウンターで何でも聞いてください。

4F



カウンター

本館

幅広い分野の図書資料、視聴覚資料が揃っています。



ブラウジング・プラザ



入館ゲート

Q君

Aさん

Q君:ここが、図書館本館ですね。
Aさん:右はブラウジング・プラザで新聞や雑誌があります。左が入口です。入館してみましょう。



Q君:どうやって入るのですか?
Aさん:学生証を入館ゲートに通してください。生田分館、神田分館も同じ方法です。

Q君:読売、朝日、日経など色々な新聞を自由に見られますね。



書庫

M3F

Q君:ここは変わった書架ですね?
Aさん:これは、電動集密書架といい、少ないスペースで多くの資料を収納することができます。このフロアーには主に雑誌のパックナンバーがあります。



書庫

2F

専修大学には、生田キャンパスに図書館本館と生田分館、神田キャンパスに神田分館、法科大学院分館、神田分館7号館分室があります。それぞれに特徴があり、蔵書数は全体で約145万冊、雑誌は約17,000誌を所蔵しています。皆さんが4年間利用する大学図書館とはどのような所なのでしょうか。それでは、これから図書館員のAさんが、新入生のQ君を本館、生田分館、神田分館へと案内します。



神田分館

法学、政治学分野の図書資料を中心に所蔵しています。

Q君:OPACって何ですか?
Aさん:専修大学図書館で所蔵している図書を検索するオンライン目録です。4月6日から毎日講習会を行いますので是非、参加してください。



Q君:ここではどんなことができますか?
Aさん:外部データベースやCD-ROMの利用ができます。



入館ゲート

1F

Aさん:入口に入って右側の閲覧室には、参考図書、社会科学系の図書があります。

Aさん:地下1階には「文庫、新書」「育友文庫ジョイ」があります。



地下1F

Q君:地下2階にはどんな資料があるのですか?
Aさん:法令・判例(国内外)の資料や貴重書があります。

地下2F



生田分館

学生中心の知的感性的遊戯空間です。

Q君:わぁ〜見晴らしがいいですねえ。気分も爽快です。
Aさん:第4B・第5閲覧室は、グループでディスカッションの場としても利用できます。



入館ゲート

1F

2F

Q君:図書館って、飲食できないのですか?
Aさん:2階には飲食できる場所があります。2階テラスは終日飲食できますし、第2B閲覧室では飲み物を飲むことができます。16時以降は、軽食もできますよ。



5F/4F



3F

ロビー

Aさん:第1閲覧室には、「教員推薦図書」「育友文庫ジョイ」「文庫・新書」などがあります。その左奥が、情報検索室の入口になっています。カウンターの脇から書庫にも入れることができます。
Q君:ブラウジングコーナーには、スポーツ新聞やファッション雑誌があるんですね。



ブラウジングコーナー

Aさん:展示スペースを貸出しています。
4/1-4/15 「未来の自分を創造しよう」所蔵本紹介
4/16-5/31 「写真研究会」展示
* 同階の第3B閲覧室では、昼休みにBS放送を放映中(12:10-12:50)です。

図書館インフォメーション

< 図書館カレンダー >

4 月							5 月							6 月							7 月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4						1	2
3	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11	3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18	10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25	17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30	29	30	31					26	27	28	29	30			24	25	26	27	28	29	30
																					31						

開館時間：本館・生田分館 月～金 9:00～21:00(土曜日は19:00)
 神田分館・分室 月～土 9:00～22:00
 法科大学院分館 月～土 9:00～22:00
 日曜開館：7月10日、17日、24日(本館・神田分館・法科分館)31日(法科分館)
 10:00～17:00
 休館日：(4月5日、7月31日は、法科大学院分館のみ開館します。)

※開館時間の変更及び臨時の開館日、休館日は、その都度ホームページや掲示で案内します。

7月は日曜開館を実施します

< お知らせ >

■ テスト前にあわてないための図書館入門ツアー

本館・神田分館

期 間：4月6日(水)～28日(木)、5月6日(金)～31日(火) ※土曜日は除く
 時 間：16:20～17:00

図書館内をまわりながら係員が施設の案内、利用方法、所蔵資料を検索できるOPACの使い方などを説明します。

■ 情報検索講習会

本 館 “レポート・論文を書くための情報検索講習会”

期 間：6月20日(月)～24日(金)
 時 間：9:00～10:30、10:40～12:10、13:00～14:30、14:40～16:10
 データベースによる図書、新聞、雑誌などの検索方法を実習します。

生田分館 “あなたも情報検索の達人になれる!”

【所蔵検索編】 期 間：4月11日(月)～22日(金) ※土曜日は除く
 時 間：12:20～12:40
 【情報検索編】 期 間：5月9日(月)～20日(金) ※土曜日は除く
 時 間：12:20～12:40

所蔵検索編ではOPACの使い方を中心に、情報検索編ではデータベースを使った新聞・雑誌記事の探し方を中心に、それぞれ実習します。

神田分館 “インストラクターによる情報検索講習会”

期 間：5月中旬～6月下旬予定
 時 間：未定

各情報検索の基本操作方法をはじめ、特に法律分野を中心としたデータベースを専門のインストラクターが指導します。

データベースの講習会は、この他にも様々計画しています。その都度、ホームページや掲示で案内します。

図書館では、利用者の個人情報を本人の同意なく第三者に提供することはありません。

■ 図書資料の移動

- 本館……ロシア語図書の請求記号変更に伴い、M3階書庫イエロー区画で別置となっていた「ロシア語雑誌バックナンバー」を洋雑誌と混配しました。
- 神田分館……1階の開架閲覧室に備えてあった「文庫・新書判図書」は、自由閲覧室1に移設しました。また「育友文庫ジョイ」は、すべて地下1階のラウンジに配架しています。これまでどおり、借出ができますので借出希望図書をカウンターに持参し、手続を行ってください。

■ 教員推薦図書について

- 学部学生を対象とした教員推薦図書の運用方法が変更されました。学部学生対象の教員推薦図書は、原則として館内利用ですが、一人の教員が同一図書を複数冊推薦している場合は、そのうちの1冊を除き、3日間の貸出ができるようになりました(7月・12月・1月を除く)。貸出できる図書資料には、禁帯出ラベルに若草色の丸いラベルが貼付してあります。詳しくは、図書館の掲示やホームページ等をご覧ください。
- 法科大学院生を対象とした教員推薦図書制度ができました。同図書は、法科大学院分館内でご利用ください。



専修大学図書館だより 第55号

発行日：2005年4月1日

編集・発行：専修大学図書館 館長 大庭 健

専修大学図書館 本館	神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1	〒214-8580	Tel.044-911-1274
生田分館	神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1	〒214-8580	Tel.044-911-7138
神田分館	東京都千代田区神田神保町3-8	〒101-8425	Tel.03-3265-8339
法科大学院分館	東京都千代田区神田神保町3-8	〒101-8425	Tel.03-3265-6914
神田分館7号館分室	東京都千代田区神田神保町3-8	〒101-8425	Tel.03-3265-6366

専修大学図書館ホームページ URL : <http://www.lib.senshu-u.ac.jp/>